

自由論題 1「東南アジアの経済」・報告 2

報告テーマ

国際的なハラール産業の拡大とその背景：
グローバル・ハラール・ムーブメントとマレーシアの戦略をめぐる考察
“Expansion of International Halal Industry and its Background:
A Consideration on the Global Halal Movement and the Strategies of Malaysia”

氏名(所属)

桐原 翠(京都大学・院)

要旨(800字程度)

本報告の目的は、現在、越境的な拡大を見せているハラール産業がどのようにして興ったのかを明らかにすることである。その中でも特に、ハラール産業のグローバルな動きとマレーシアの動きについて着目する。

今日、注目を集めているハラール食品とは、シャリーア(イスラーム法)に照らして合法的な食品のことを指す。肉や肉製品は特に、シャリーアに則り、屠殺を行っている必要がある。加えて、腐敗した肉や、死肉は食すことが禁じられており、毒や人体に害を与えるものの摂取なども禁じられている。このようなハラール食品に関する規則は、ガイドライン化が進み、2011年以降には、世界各地でハラール食品に関連するガイドラインの策定が増加した。また、日本の例を挙げると、ムスリム訪日観光客は2011年頃から増加傾向にあり、2018年では100万人を超えると予想されている。ムスリム旅行客の増加に伴う形でハラール食品の存在が拡大し、ガイドラインの策定が増加していくと共に、ハラール食品とは単にブタやアルコールを抜いたもの、あるいは「ハラール食品とは単なるビジネス」であるといった表層のみが理解される傾向も見られるようになっている。現在、ここまで食に焦点が当たることとなった一因に、グローバル化によるモノやヒトの移動の増加が考えられ、その視点からの考察も必要とされる。

従来ハラールに関する研究において、ハラール産業に対するアプローチは様々である。ハラール産業は宗教、経済、社会、政治などの多分野に跨っており、様々な観点から分析されている。それらを大きく分けるとするならば、(1)ビジネスの観点(2)ムスリムの消費行動の観点(3)ムスリムのアイデンティティの観点(4)シャリーアの観点(5)ハラール産業の政策に関する観点などとなる。これまで、多くの先行研究が、ハラール産業をめぐる現状やハラール食品の製造工程などについて言及している一方、ハラール産業の起源に着目して分析したものは少ない。加えて、従来の分析では各々が独立して論じてられている傾向にあることから、ハラール産業に対する総合的な認識が欠落した状態にある。そこで、分野横断的な視点から、ハラール産業の起源を分析・総合することで、研究史上の貢献をめざす。

本報告では、ハラールの越境的動向を「グローバル・ハラーム・ムーブメント」と命名し、1970年代のイスラーム復興を起点に、ハラール産業がどのように起こったのかその起源とその背景に着目した考察を行う。従来の研究では十分に検討されてこなかった部分に焦点をあて、ハラール産業が興った背景を分析し、ハラールに関するグローバルな動きを明らかにするための一視点を提供したい。